

科博オンライン・セミナー

～サイエンスコミュニケーション編～

「科博オンライン・セミナー ～サイエンスコミュニケーション編～」は令和2年度に新たに国立科学博物館で開催する、サイエンスコミュニケーションのエッセンスを自宅で気軽に学ぶことができるオンライン型の講座です。本講座は、従来、来館型で実施していた「サイエンスコミュニケーター養成実践講座」の中から、オンラインで実施できる科目を抜粋して再構成した講座です。

応募〆切

8月24日(月)

講座概要

【主催】 国立科学博物館

【対象】 大学院生、社会人 ※1

【方法】 **オンラインでの講義**（※国立科学博物館に来館して行う集合型講義ではありません。）

【期間】 2020年9月～11月

【コマ数】 10コマ ※2（講義のほか、オリエンテーションがあります。）

【定員】 20名程度

【受講料】 17,460円（大学パートナーシップ入会校の大学院生は8,730円）

※1 「国立科学博物館大学パートナーシップ」入会大学の大学院生を優先させていただきます。

※2 1コマの講義は90分間（オンデマンド型授業60分間+同時双方向型授業30分間）になります。

講義形態

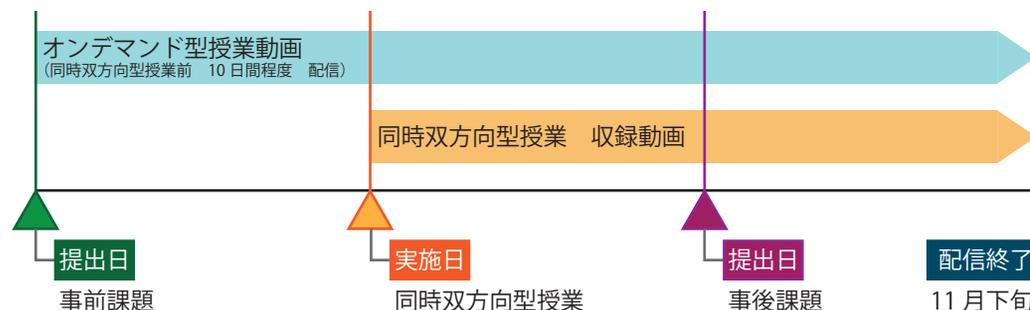
<1コマの構成>

オンデマンド型授業60分間+同時双方向型授業30分間で構成



<1コマの流れ>

動画配信は下の図のように行います。



講義一覧

令和2年度「科博オンライン・セミナー ～サイエンスコミュニケーション編～」

オンデマンド型授業 (60分間) 配信期間	同時双方向型授業 (30分間) 実施日	講義名	講師名	所属・職名	講義内容
なし	9月18日(金) 17:00-18:00	オリエンテーション	担当職員	国立科学博物館	本講座を受講するに当たって、講義の方法や評価などについての説明を行います。Zoomの接続もテストします。
各講義の 同時双方向部分 実施日の10日前 までに配信予定	9月25日(金) 17:00-17:30	サイエンスコミュニケーション という考え方 背景及び目的	渡辺 政隆	日本サイエンスコミュニケーション協会 会長	サイエンスコミュニケーションとは何か、何を指すのかを、時代背景を振り返りながら学びます。サイエンスコミュニケーションの実践についても触れます。
	10月2日(金) 17:00-17:30	博物館の機能と サイエンスコミュニケーション	小川 義和	国立科学博物館 調整役 筑波大学 客員教授	展示や来館者に向けた学習支援活動等、博物館の資源を活用したサイエンスコミュニケーションについて学びます。
	10月10日(土) 11:00-11:30	地域コミュニティにおける 博物館の活動	坂本 昇	伊丹市昆虫館 副館長 兼 公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団 事業企画課 主査	地域における博物館のイベント事例を中心に、博物館と地域コミュニティの協同や、事業の運営・継続性について学びます。
	10月16日(金) 17:00-17:30	調査・研究活動と展示	加瀬 友喜	神奈川大学 理学部 特任教授 国立科学博物館 名誉研究員	自然科学系博物館の成立の歴史を概観し、国立科学博物館の地学分野を例にして、調査・研究活動と展示の関わりについて紹介します。
	10月24日(土) 11:00-11:30	メディアに見る サイエンスコミュニケーションの 実際:新聞編	岩井 淳哉	ジャーナリスト	新聞の科学記事等の実例を紹介しながら、科学報道の意義や新聞というメディアにおけるサイエンスコミュニケーションについて理解を深めます。
	10月30日(金) 17:00-17:30	サイエンスコミュニケーションの 考え方をどのように生かすか	池谷 知夏	大日本図書株式会社	当館でサイエンスコミュニケーションを学んだ後、仕事の中で、講座で学んだことをどのように生かしているかを紹介します。
	11月6日(金) 17:00-17:30	サイエンスイベントの概念と 事例について	羽村 太雅	サイエンスエデュケーションラボ 理事長	講師が行ってきたサイエンスイベントの活動紹介を通じて、社会の中でのサイエンスコミュニケーションの立ち位置やイベントの実践に必要な技能を考えます。
	11月13日(金) 17:00-17:30	プロジェクトマネジメント	高安 礼士	福岡市科学館 プロジェクトアドバイザー	イベント等の活動の際に必要な使命、活動資源、評価等の事業構造を理解するとともに、予算等マネジメントの知識について学びます。
	11月20日(金) 17:00-18:30	サイエンス・ライティング	渡辺 政隆	日本サイエンスコミュニケーション協会 会長	サイエンス・ライティングの歴史や事例について学びます。また、受講生の書いたエッセイ等の添削を通じて文章作法についても議論します。

※「サイエンス・ライティング」のみオンデマンド型授業 90分間、同時双方向型授業 90分間の2コマ(計180分間)を予定しています。

昨年までの「サイエンスコミュニケーター養成実践講座」との関係について

従来、来館型で実施していた「サイエンスコミュニケーター養成実践講座」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から今年度は中止いたしました。

来年度以降の「サイエンスコミュニケーター養成実践講座」の実施については今後の感染状況等を踏まえ改めて検討することとしております。なお、本講座(令和2年度「科博オンライン・セミナー～サイエンスコミュニケーション編～」)の修了者が「サイエンスコミュニケーター養成実践講座」を来年度以降に受講する場合、既に受講した講義は受講済みとみなすとともに、当該講義の受講料の一部を免除いたします。

なお、「科博オンライン・セミナー」を修了しても、「国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター」の認定は行いません。